

**「市民の皆様からの
ご意見と神戸市の考え方」**

**平成 16 年 11 月
神戸市保健福祉局**

(目 次)

新中央市民病院の基本的な考え方

基本理念	1 P
1．新中央市民病院の特徴	4 P
2．病床規模の設定	2 2 P
3．立地場所と施設概要	2 4 P
4．運営形態と経営改善	3 0 P
5．整備手法と整備スケジュール	3 1 P
その他の検討事項	
(1)施設・設備面での具体的な検討	3 3 P
(2)跡地利用	3 4 P
その他	3 6 P

(注記1) いただいたご意見について、神戸市保健福祉局で要約・整理いたしましたので、ご意見そのものと表現が異なるものにつきましては、よろしくご了承願います。

(注記2) 募集期間外にいただいたご意見につきましては、件数には計上していません。しかしながら、今後本構想を具体化していく上での参考とさせていただきますので、よろしくご了承願います。

(注記3) 神戸市の考え方の中で、下線_____は、基本構想(案)に追加・加筆する項目を示しています。

新中央市民病院の基本的な考え方

基本理念（75件）

（新中央市民病院の基本的な考え方について）

市民意見	市民病院は広く浅い医療を行い、研究や実験は国や大学などの施設にまかせるべきではないか。（19件）
	高度専門医療にばかり目が向いて基礎的な医療や予防医療をおろそかにしているのではないか。（9件）
	最先端技術を活かした治療を市民病院で手軽に受診できるよう希望する。（6件）
	一般医療よりも、高度先進医療、先端医療に比重を置き、自費診療、混合診療を視野に入れた先端医療産業のための特殊な病院になるのではないか。（6件）
	新中央市民病院が担うべき使命は、より広域的な人々に広く利用される特別な機能をもった、日本の、アジアの最先端の医療の実施病院として位置付けられる必要があると思う。（3件）
	日本各地の最先端の医療技術を駆使した治療が受けられるよう大学・医局の垣根を取り払い、幅広い医療スタッフの確保と充実を目指してほしい。（3件）
	高度先進医療が専ら富裕層を対象にしているととの誤解を解くためにも他の医療機関との連携を密に行うなど利用しやすい信頼の厚い病院づくりを期待する。（3件）
	安心できる病院が整備され、新しい神戸の顔として内外の神戸を訪れる人に、安全で安心なまち神戸をアピールして欲しい。（3件）
	市民のための総合病院が特定の人のための市民病院になりごく普通の入院患者が締め出されるのではないか。（3件）
	市民病院の使命は市民がだれでもいつでも上質な医療が受けられることである。この意味から今回の(案)は、先端医療が受けやすくなるという点は評価できる。（2件）
	隣接の医療産業都市構想関連施設との連携による特徴ある総合病院を期待する。（2件）
	中央市民病院はこれまでの実績を踏まえて採算を度外視してでもさらに先端医療を行う場であってほしい。（2件）
	医療産業都市構想の中での先端医療のための病院建設が重点となり、本来の市民のための医療機関の役割が小さく扱われているのではないか。（2件）
	中央市民病院を医療産業都市構想の臨床部門の核として位置づけようとしていることは許されない。（2件）
先端医療を目指すのはいいが、患者が知らないうちに実験台にされることはないか。（2件）	

	弱者に優しい医療を一番希望する。(1件)
	救急医療・災害対策・高度専門医療センターとしての機能を更に充実させてほしい。(1件)
	市民が利用しやすい安心して診療が受けられる市民病院を目指してほしい。(1件)
	救急を中心とした現在の医療機能を維持しつつ、新たな医療ニーズにも対応する計画で移転を行うのであれば賛成である。(1件)
	高度医療をなじみのない高コスト医療ととらえるのではなく、進歩した治療の恩恵を受けられることと捉え、病院機能の向上を図ることには賛成である。(1件)
	先端医療が手軽に受けられるようになるというのが、現在の一般医療や救急医療の水準が低下するのではないか。(1件)
	先端医療ばかりを追求するのは、一部医師の名誉につながるのか。(1件)
	西洋医学の還元主義を押し進めることで、医学の将来はばら色の世界が開けると考えているようだが、高度先進医療の目玉とされている再生医療は、ばら色の世界をもたらすものとは限らないのに、なぜ市民病院が先頭切って多額の市税を使う必要があるのか。(1件)
市の考え方	<p>基本構想(案)にも記載のとおり、新中央市民病院の基本的な考え方については、第一番目に「地域医療機関との連携や役割分担のもと、引き続き救急医療・高度医療・急性期医療を重点に担い、24時間365日市民の生命と健康を守る」ことを掲げ、その役割を強化していくために「医療産業都市構想の臨床部門の核として、高度先進医療を市民に早期に提供する」ことに加えて、「患者・家族に対する癒しと安らぎの環境をあわせ持った病院となり、患者本位の医療を提供する」という考え方をお示ししています。</p> <p>現中央市民病院にある全診療科において、標準的な医療を高いレベルで24時間365日引き続き提供していくことについては、今後も何ら変わりはありません。</p> <p>新中央市民病院では、これらの標準的医療に加えて、少子高齢社会の到来に伴い新たに生じる医療需要に対応する「心臓センター」、「脳卒中センター」、「がんセンター」、「成育医療センター」、再生医療など新しい医療を出来るだけ早く市民に提供する「移植・再生医療センター」、新興感染症から市民を守る「感染症センター」を設置し、診療科の壁を越えたチーム医療を徹底させることにより、更に質の高い医療を効率的に提供していきたいと考えています。</p> <p>さらに、これらの医療では治療が困難な患者さんに対しては、先端医療センターの臨床部門との密なる連携により、先端医療センターにおいて臨床研究を終えた最先端の医療を、安全性・倫理性・科学性が認められ臨床に導入された段階で、患者さんの同意を得て速やかに提供することで、標準的な医療では対応できない疾患に対する治療の選択肢を広げ、市民の生命と健康を守る市の基幹病院としての機能の強化を図り</p>

たいと考えています。

市民のみなさんからいただいた意見からも分かるように、市民のみなさんが望む医療は、疾病や病状に応じて初期診療、入院での管理や手術が必要なもの、特に高度な入院治療が必要なもの、長期の療養が必要なものなど様々ですが、地域の診療所や病院との適切な役割分担や連携を図りながら、神戸市全体で市民が必要とする医療を充足できるよう、救急医療・高度医療・急性期医療を重点に担い、中央市民病院が本来果たすべき役割を担っていきたいと考えています。

1. 新中央市民病院の特徴 (188件)

(1) 救急医療の充実 (16件)

(救急医療の充実について)

市民意見	救急医療の充実に期待する。(4件)
	救急時・災害時に陸海空の緊急搬送体制が整った病院を整備してほしい。(3件)
	内科、外科以外の小児科、耳鼻科、歯科、眼科、精神科など民間病院が対応できない診療科の救急を充実してほしい。(2件)
	救急医療でも手術などの高度処置ができるようにしてほしい。(1件)
	ハイリスクの患者を登録することで、救急医療で迅速な対応をしてほしい。(1件)
市の考え方	<p>新中央市民病院でも、地域の救急医療システムにおける役割分担のもと、ドクターカー、ドクターヘリのより一層の活用も視野に入れながら、民間病院が対応しにくい診療科を含め、引き続き救急患者の受入を全診療科において決して断らない救命救急センターとして救命救急、2次救急、初期救急に取り組んでいきます。</p> <p>救急部門には新たに救急専用検査室を設け、これまで以上に迅速な検査ができる仕組みを構築するほか、画像診断部門などとの動線の短縮を図り、診断確定・治療開始までの時間短縮を図るなど救急医療の充実を図っていきたいと考えています。</p> <p>ハイリスク患者に関するご提案については、「さらに、退院患者の急変時に迅速な対応が可能となるよう各診療科の情報を救急部門で共有できる仕組みを検討します。」という文言を加筆し、今後基本計画策定時に検討させていただきたいと考えています。</p>

(小児救急の充実について)

市民意見	小児救急の充実を図り、1次から3次までの小児救急医療センターをつくってほしい。(3件)
	小児救急医療を十二分に提供するには、より大きな総合小児医療センターを隣接させて構築したほうが、効率的に運営できるのではないか。(1件)
市の考え方	<p>小児救急については、現在も、24時間365日対応可能な体制を組み、初期から3次までの救急医療にあたっており、小児救急患者は当院救急患者の約3割を占めています。</p> <p>新中央市民病院では、小児救急の充実を図るためにも、新たに成育医療センター(お母さんとこどものための医療センター)を設置し、こどもや保護者が安心して診療を受けられる配慮をしていきたいと考えています。</p> <p>また、兵庫県立こども病院などとの連携を深めることで、さらに効率的な運営を図っていきたいと考えています。</p>

(精神科救急の充実について)

市民意見	単科の精神病院では外科的・内科的処置があった場合に対応できないことから、精神科救急を充実し、総合病院で24時間精神科医と他科の救急対応ができるようにしてほしい。(1件)
市の考え方	<p>市民が利用しやすい精神科救急医療体制・身体症状を有する精神障害者への適切な医療のあり方については、市民のこころの健康づくりのための複合的機能を備えた中核施設として設置された「神戸市こころの健康センター」を拠点として企画、実施しています。</p> <p>市民病院群としては、精神病院に入院中の患者さんが身体合併症を併発された場合、西市民病院に身体合併症病床を4床を確保し、その治療にあたるなど役割分担を図っています。</p>

(2) 災害に強い病院(12件)

(災害時の医療提供体制について)

市民意見	<p>震災の経験を活かし復興をイメージできる災害に強いハードとともにソフト(緊急時医療体制等)を育成充実してほしい。(5件)</p> <p>災害時にも医療を提供できる施設とそこへの最短のアクセス網について、しっかりと整備してほしい。(1件)</p> <p>震災を経験した病院として「災害医療」の実践項目にもっと細かな記述があるべき。(1件)</p>
市の考え方	<p>中央市民病院は、平成8年度に神戸医療圏の「地域災害医療センター」として厚生省(当時)から災害拠点病院の指定を受け、非常用自家発電装置、井戸設備の設置、医療機器等の備蓄倉庫の整備などその機能強化のための自立機能や医療機能の確保を図り、ライフラインや交通の寸断時にもある程度対応できるように努めています。また、病院施設の対策だけでなく、神戸市の地域防災計画に基づき、保健センターと救護班を編成し院外の救護活動も担っています。</p> <p>災害医療に関しては、「<u>神戸医療圏の災害拠点病院として、引き続き、災害時の初動期に被災患者の受け入れ、治療、救護班の派遣等を迅速に行ないます。また、兵庫県災害医療センターを中核とする県内における災害救急医療システムの中でも役割を果たしていきます。</u>」という文言を加筆し、今後とも災害発生時の院内マニュアルの徹底や想定訓練を実施するなど災害時に機能する病院としてその役割を果たしていきたいと考えています。</p>

(災害に強い施設について)

市民意見	ライフラインの二重化のため太陽光・風力、雨水・井水利用を検討してはどうか。(3件)
	大震災時にも、各種医療機器が支障なく確実に稼働し、診療ができるよう、施設に免震・制震機構を設置してほしい。(1件)
	災害時・緊急時の部屋のレイアウト変更が可能なシステム(可動壁)を導入し、多くの患者が来院した際に、部屋を拡張できる構造にしてほしい。(1件)
市の考え方	<p>新中央市民病院では、自然災害や大規模事故災害発生時に、処置室、病室に転用できるように医療用配管を設置した共用の会議室などの整備や阪神・淡路大震災のような大地震に際しても病院機能を維持できるように免震構造や制震構造の導入を検討するほか、飲用・雑用水の分離備蓄、電力・通信の引込を二重化するなどライフラインの強化を図っていきたいと考えています。</p> <p>可動壁の導入やライフラインの二重化のためのご提案につきましては、今後、構想を具体化する中で検討させていただきたいと考えています。</p>

(3) 高度専門医療センターの設置(13件)

(成育医療センターについて)

市民意見	成育医療センターの医師・設備を充実し、すべての子供たちの医療と療育の中心となることを願っている。(3件)
	成育医療センターに対して、小児がん、不妊治療等に対する医療技術はもちろんのこと、不妊治療の抱える倫理的な問題、多発する子供への虐待などに対応したカウンセリングなど精神的なサポートの充実に期待したい。(2件)
市の考え方	<p>新中央市民病院では、少子化や核家族化が進む中、次代を担うこどもとその家族の健康は大きな課題と考え、高度専門医療センターの一つとして成育医療センター(お母さんとこどものための医療センター)を設置することを掲げています。</p> <p>当センターでは、産科・新生児科・小児科の医師が一体となり、妊娠相談や不妊治療などの生殖補助医療にはじまり、妊婦の段階ではハイリスク妊婦の治療やハイリスク分娩の管理、新生児の段階では未熟児・病的新生児の治療、小児の段階ではアレルギー疾患・免疫異常などに対する専門治療、思春期の段階では思春期疾患の治療やこころのケアといった医療を一貫して担当していけるようにしたいと考えています。</p> <p>また、センター内には、こどもの不安を取り除き、こどもが退屈せずに過ごせるような外来や病棟の実現を図るなど、患者の視点に立った環境整備を行なってまいりた</p>

	<p>いと考えています。特に、小児の入院の際には、子供の不安を和らげるため、家族が長期間付き添うケースが多々あることから、このような家族の身体的負担・精神的負担を緩和するためにも何らかの配慮が必要であると考えています。</p> <p>さらに、患者・家族へのカウンセリング機能として現在は、例えば、不妊治療では、専用の相談室で専任の医師・看護師・助産師・エンブリオロジスト(受精卵・精子を専門に扱う技術者)が対応し、また、児童虐待については、医師・看護師・ケースワーカーが、市の子供家庭センターとも連携し、未然防止に努めています。</p> <p>成育医療センターでは、これらの機能の充実を、ソフト・ハード両面から検討していきたいと考えています。</p>
--	---

(移植・再生医療センターについて)

市民意見	最先端の再生医療など、患者のQOL(生活の質)を上げる治療の導入は、是非とも実現してもらいたい。(3件)
	現状の移植実施症例から考えて中央市民病院が移植医療に備える必要があるのか。(1件)
市の考え方	<p>患者のQOL(生活の質)を高める治療として期待される再生医療は、移植医療の延長線上にあり、移植医療の技術・知識が欠かせないことから、移植施設としての施設・設備、医療提供体制等の条件整備をしておく必要があると考えています。</p> <p>現在、先端医療センターの臨床部門では、血管を再生する治療や歯の土台となる骨を再生する治療などの臨床研究が、倫理委員会で認められ、臨床に応用できる段階まで進んでいます。また、難病のパーキンソン病などにも将来的には再生医療が導入される可能性があるかと期待されています。</p> <p>新中央市民病院の移植・再生医療センターでは、先端医療センターで開発された再生医療などの新しい医療技術や治療方法を、安全性・倫理性・科学性が認められ高度先進医療等として臨床に導入された段階で、速やかに従来の方法では対応が困難な病気の治療に還元していきたいと考えています。同時に、新中央市民病院の臨床の現場で求められる新たな技術、治療へのニーズを先端医療センターの臨床研究につなげていき、相互に連携を図っていきたいと考えています。</p>

市民意見	移植・再生医療センターと先端医療センターとの関係、役割分担が不明確ではないか。(1件)
市の	先端医療センターは、最先端の医療技術等を使って、基礎研究の成果を臨床に応用するための臨床研究を中心に行ない、中央市民病院は、安全性・倫理性・科学性が認

考 え 方	められ高度先進医療等として臨床に導入された段階で、高度な治療を行うなど、役割分担していこうと考えています。 中央市民病院と先端医療センターとは、適切な役割分担と連携を図りながら、新しい医療技術や治療方法の開発、普及に取り組み、医療水準の向上に貢献していきたいと考えています。
-------------	--

(感染症センターについて)

市 民 意 見	未知の病原菌への対応など、安心して市民が生活できるようにしてもらいたい。(2件)
	SARS等の新興感染症になった場合もしっかりと診てもらえるのは、ありがたいが救急外来の入り口を複数にして他の患者さんへの感染防止ができるようにしてほしい。(1件)
市 の 考 え 方	新中央市民病院では、鳥インフルエンザ、SARSなどの新興感染症から市民を守る専門医療センターとして「感染症センター」を設置し、感染防止をより徹底させるため動線や設備を完全に別系統に分離した専用の入り口、受付、陰圧の診察室・病棟を整備することや感染症の専門医・認定看護師を配置することにより万全の体制で市民の命を守っていききたいと考えています。

(4) 患者にやさしい医療の提供(19件)

(総合外来の設置について)

市 民 意 見	診療科ごとの単独診断では分からない病気を総合的に診断できる医療に力を入れてほしい。(2件)
	なんとなく体の調子が悪く、どこの診療科に行けば良いのかわからないときや紹介状がないとき、初期診療を行う総合外来があるのは非常にありがたい。(2件)
	外来軽視に感じる。(1件)
市 の 考 え 方	近年の医療の専門分化や医師の専門医志向の中、今後の医療では、少子高齢社会の到来、社会の複雑化・多様化を背景に、多様な診療科と地域保健・医療等の素養を身につけることが医師にとって必要不可欠であるとの認識の下、患者の全人的な診療を行うために、厚生労働省により、医師の臨床研修制度の見直しが行われました。 当院も臨床研修指定病院として、患者の全人的な診療を行える医師の養成など医療従事者の質の向上のための取り組みを引き続き行っていききたいと考えています。 さらに、新中央市民病院では、紹介状を持たない患者さんやどの診療科にかかるべ

	<p>きか分からない患者さんのための「総合外来」を設置し、初期診療を行うとともに、診断や治療方針の確定後は、患者さんにとって最適な医療が受けられるよう地域の医療機関、専門の診療科などへのスムーズな流れを整備していきたいと考えています。</p> <p>「院内完結型医療」から「地域完結型医療」へと医療に対する考え方が変化している中で、基幹病院が担うべき外来機能の充実に努めていきたいと考えています。</p>
--	--

(「日帰り手術センター」、「通院治療センター」の設置について)

市民意見	<p>日帰り手術センターの設置は、経済的負担が減り、仕事や家庭の事情で入院するのが難しい人にとって大変良いことだと思う。(3件)</p>
市の考え方	<p>新中央市民病院では内視鏡による手術、レーザー光による手術、血管内に細いカテーテルを挿入して行う手術など開頭、開胸、開腹を伴わない、体への負担を最小限にした手術を今以上に充実したいと考えています。これに対応し、新たに「日帰り手術センター」を設置し、従来入院をして行っていた手術を、日帰りまたは1泊2日で行うことにより、仕事や子育て等で家を長期間空けられない方も安心して治療が受けられ、早期に日常生活に戻るほか、治療期間が短くなることで経済的な負担も軽減できるようになると考えています。</p>

(セカンドオピニオンについて)

市民意見	<p>セカンドオピニオン制度を導入してほしい。(1件)</p>
市の考え方	<p>「患者本位の医療」を提供するために、主治医以外の医師に治療法などについて意見を求める「セカンドオピニオン」の必要性が高まっており、全国的にも「セカンドオピニオン外来」を設置する病院が増えています。</p> <p>現在、セカンドオピニオンについては、院内各所に掲示している「患者の権利章典」の中で、医療内容について他の医師の意見を求める権利があることを明記し、各診療科の一般の外来診察の中で対応を行っています。</p> <p>「セカンドオピニオン外来」という特殊外来を設けることは、対象となる診療科が非常に多いため難しいと考えられますが、診断に不安を持つ患者さんに適切な対応を図ることは、公立病院のひとつの役割であると認識しています。</p> <p>そこで基本構想(案)に「セカンドオピニオン機能の充実」という項目を追加するとともに「患者さんが、診断や治療法について自己決定するために、他の医療機関の医</p>

	<p>師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利を尊重するとともに、他の医療機関から意見を求めて来院する患者さんに適切な対応を図るため、現在、一般外来診察の中で行なっているセカンドオピニオン制度をホームページや広報紙を利用してPRするとともに、見識を持った優秀な医師を確保していくなど、機能の充実を図ります。」という文言を加筆し、今後、診療ニーズや他病院の動向などを踏まえながら、構想を具体化する中で十分検討させていただきたいと考えています。</p>
--	---

(専門外来の充実等について)

市民意見	女性外来を充実してほしい。(2件)
	高齢者総合診療科の設置など高齢社会に対応した医療の充実にも真正面から取り組んでほしい。(2件)
	近年、ストレスや心的障害といったことが、非常に大きな問題となっており、心のケアができる病院になってほしい。(1件)
	オーダーメイドの薬や漢方、マッサージ、アロマセラピーも含めた患者個々人の体質にあったバランスのとれた治療を受けたい。(1件)
市の考え方	<p>現在、頻度の高い高度な専門性を要する疾患や病態をもつ患者さんを対象に、女性外来をはじめ、アレルギー外来、糖尿病外来、泌尿器科思春期外来、抑うつ外来やストレス外来など41の専門外来を開設しています。</p> <p>各々の専門外来については、常にその役割やニーズを把握し、適時見直していく必要があると認識していますが、ご提案の内容についても、地域医療機関との役割分担も踏まえながら、今後の検討課題とさせていただきたいと考えています。</p> <p>高齢社会への対応としては、なんとなく体の調子が悪いがどこの診療科に罹るべきか分からない患者さんのための「総合外来」を設置するほか、高齢社会において増大が見込まれる3大疾病に対応する高度専門医療センターとして「心臓センター」、「脳卒中センター」、「がんセンター」を設置し、内科系医師、外科系医師、放射線治療の専門医師、看護師、放射線技師、薬剤師などがチームを組んで来院当初から患者さんにとって最適な治療を行うなど、高齢社会に対応した医療の充実にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。</p>

(難病対策について)

市民意見	基本的な考え方の「患者中心の医療を提供する」という中に「難病の原因を究明し、その治療方法の確立を目指す」という文言を入れてほしい。(1件)
	長期入院施設と難病患者生活施設(グループホーム)を併設してほしい。(1件)
	難病病棟を設置してほしい。(1件)
市	難病は、病態も様々であり、その多くが原因不明で治療法が確立されていないとこ

の 考 え 方	<p>ろですが、中央市民病院としては、これまでもパーキンソン病の定位脳手術など神経難病の新しい治療法にも力を入れるなど、各診療科において難病患者の治療に取り組んでいます。</p> <p>現在、先端医療センターにおいては、再生医療などの新しい医療技術、治療方法の研究・開発が行われていますが、新中央市民病院では、先端医療センターの臨床部門との連携を強化することにより、難病治療を含めて先端医療センターの臨床部門で開発された新しい医療技術や治療方法を、安全性・倫理性・科学性が認められ臨床へ導入された段階で、速やかに患者の治療に還元できるよう努めてまいります。</p> <p>難病治療を含め、他の医療機関では提供できない高度な医療を提供することも公的病院の重要な使命であり、市民病院群を含む公的病院の役割分担の中で検討していきたいと考えています。</p> <p>なお、難病患者の生活施設(グループホーム)は国の制度がなく、本市としても実施しておりませんが、難病患者の地域生活を支援していくために必要なサービス・環境整備について、引き続き研究していきたいと考えております。</p>
------------------	---

(緩和ケア機能について)

市 民 意 見	現在の病院機能に加え、緩和ケア機能をお願いしたい。(1件)
市 の 考 え 方	<p>緩和ケア機能については、現在、医師・看護師・薬剤師が緩和ケアチームをつくり、患者の疼痛緩和を図るために、チームを組んで活動していますが、新中央市民病院でも、チーム医療の充実に取り組みながら、地域医療機関との連携の強化を図り、患者さんにとって最適な医療が受けられるような仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>また、新中央市民病院は「癒しと安らぎの環境整備」をコンセプトの一つに掲げており、最後の看取りをどのような形で行なうかといった観点からも検討し、それに相応しい環境整備に取り組んでいきたいと考えています。</p>

(5) 患者・家族の視点に立った環境整備(70件)

(「癒しと安らぎの環境」の整備について)

市 民 意 見	<p>患者が利用しやすく、アメニティの高い、癒されるような空間のあるホスピタリティある療養環境を構築してほしい。(12件)</p> <p>患者さんがゆっくり話ができるスペースや、手術の際の家族の待機室、待合室等患者・家族のための施設を充実させてほしい。(3件)</p>
------------------	--

	子どもとお母さんのために、外来診察時に子どもが退屈しない遊びスペースに配慮してほしい。(1件)
市の考え方	<p>新中央市民病院では、患者や家族の視点に立った癒しと安らぎの環境を重視し、より安心して治療や診断が受けられるよう建築上の工夫を導入していきたいと考えています。</p> <p>例えば、病室や外来診察室はゆとりのある空間にするとともに患者のプライバシーが守れる構造にしたいと考えています。また、各病棟に患者食堂、リハビリコーナー、デイルームや落ち着いて家族と話が出来る面会コーナーを設置するほか、手術部門や集中治療部門、救急部門の待合などには、不安を抱える患者・家族の心を和ませる「癒しと安らぎの空間」を適切な広さで配置したいと考えています。</p> <p>このほか、新たに設置する成育医療センター(お母さんとこどものための医療センター)では、こどもの不安を取り除き、こどもが退屈せずに過ごせるような待合空間や病棟の実現を図っていきたいと考えています。</p>

(治療環境・療養環境の改善とプライバシーの保護について)

市民意見	病室については、個室を多く取ったり、4人部屋でもベッド毎に窓があり自然光を感じられる設計にしてほしい。(5件)
	現病院の、看護観察を容易にした平面構成について、入院患者・看護提供側から評価を行った上で、新病院設計に反映してほしい。(1件)
	病室は長期入院用と、短期入院用とを作り分けてはどうか。(1件)
市の考え方	<p>現中央市民病院の病棟は、ナースステーションをオープンカウンターとし病棟の中央に配置することにより、患者さんとのアイコンタクトが容易に出来ることから、患者さんに安心感を与え、看護サービスがどの病室にも均等に提供できるというメリットがある一方、患者プライバシーの確保という観点からは課題があると考えています。</p> <p>新中央市民病院の病棟計画にあたっては、患者さんの病状に応じた相応しい治療環境・療養環境が必要と認識しており、個室感覚の4床室の整備や個室比率の向上、各病室へのトイレ、シャワーの設置のほか、患者さんのプライバシーが守られる病室を実現するとともに、現病院のメリットも生かし、患者さんが安心して快適に過ごせるような治療環境・療養環境を検討していきたいと考えています。</p>

(食事メニューの改善について)

市	出産後の食事メニューを改善してほしい。(1件)
---	-------------------------

民意見	患者のために、病院食をある程度自分で選べるようにしてほしい。(1件)
市の考え方	病院給食は、患者さんの栄養状態の把握と効率的な栄養補給を行う治療の一環であるとともに、患者さんにとって入院生活の中での楽しみの一つであると認識しており、現中央市民病院でもアレルギーなどの個別対応、適時適温給食、行事食の導入などその充実に努めているところです。今後、構想を具体化する中で、選択メニュー制の導入など食事メニューの改善についても、実現を図っていきたいと考えています。

(待ち時間対策の推進について)

民意見	待ち時間の少ない効率的なシステムをつくってほしい。(14件)
市の考え方	<p>待ち時間対策については、これまでも診療時間の繰上、外来オーダリングシステムの導入、再来受付機の導入など様々な取り組みを行ってきましたが、依然各種調査によると、改善要望項目の上位を占めています。</p> <p>新中央市民病院では、予約時間枠の設定の改善やかかりつけ医からの紹介患者を優先的に受け入れる「紹介外来」の設置などにより、診察の待ち時間自体の短縮を図るとともに、診察の待ち時間の苦痛の緩和策として、院内のどこにいても診察や検査のタイミングがわかる設備も導入し、待ち時間を有効に活用していただけるよう努めていきたいと考えています。</p> <p>その他、会計の自動精算機などの導入、画像診断部門や検査部門の効率的な配置などにより、トータルの待ち時間の短縮を図りたいと考えています。</p>

(院内動線について)

民意見	院内で患者が迷わないように、来院から受付、待合、受診から精算に至るまでの動線が分かりやすい配置にしてほしい。(3件)
	現病院はエレベーターの待ち時間が長く、5階くらいまでのエスカレーターの設置やエレベーターの必要台数の確保、患者とスタッフ専用のエレベーターを分けるなどの対応をしてほしい。(2件)
	院内が広ければ広いほど、検査・治療の際移動が患者の負担になるのではないか。(1件)
市の考え方	現在、中央エレベーターに人の流れが過度に集中することにより、エレベーター待ちとも呼べる待ち時間が発生しているほか、病棟部門の床荷重や診療部門の柱幅とい

考 え 方	<p>った構造上の制約のため、診断や治療に必要な部屋が院内各所に分散し患者さんに長い距離を移動していただいているなど、ご不便をおかけしています。</p> <p>新中央市民病院では、現在の部門配置を根本的に見直し、患者さんの立場に立った効率的な施設配置により各種動線の改善を図っていきたいと考えています。今後、構想を具体化する中でエレベーターの適正配置などに関するご提案についても、検討させていただきたいと考えています。</p>
-------------	---

(薬局について)

市 民 意 見	<p>薬局について、近所の薬局へ処方箋をFAXしてもらい、患者が薬を取りに行ったときは、待ち時間なしで薬がもらえるシステムにしてほしい。また、薬代は病院で一括で払いたい。(1件)</p>
市 の 考 え 方	<p>薬剤業務については、病院の医師と薬局の薬剤師が完全に独立した立場で、それぞれの専門性に基づき業務を分担することで、処方の二重チェックが行われること、薬局薬剤師から薬に関する十分な説明が受けられること、複数の医療機関にかかっている患者さんにとっては、かかりつけ薬局を持つことで患者さんごとに作成されている薬暦を利用することにより、薬の重複投与や相互作用の危険性を防ぐことが可能となることから、既に平成16年6月より医薬分業を開始しています。それにあわせて、地域の薬局の紹介や処方箋を事前に地域の薬局に送信するための処方箋送信サービスも行なっております。</p> <p>なお、法令により病院と地域の薬局とは経営主体が別のため、患者さんから病院での診察料と地域の保険薬局での薬代を一括していただくことはできませんのでご理解ください。</p>

(予約について)

市 民 意 見	<p>予約日を変更する場合は、電話・メール等でも受け付けて欲しい。(1件)</p> <p>患者が予約時間に必ず受診できるようにしてほしい。(1件)</p>
市 の 考 え 方	<p>診療予約制度については、待ち時間の短縮と患者サービスの向上の観点から、取り組みを進めており、現在、診察の予約については、電話での変更が可能となっています。予約時間に受診できないことについては、現中央市民病院の課題と認識しており、現在紹介患者の予約時間枠の設定など改善策を検討しているところです。</p> <p>新中央市民病院では電子カルテの導入をはじめ病院全体のIT化を図り、院内の情報処理を一元的・効率的に行うことを考えており、現在、FAXを使って行なっている地域医療機関からの診療予約制度にも、今後、メール等を含む情報技術の活用ができないか検討を進めるほか、かかりつけ医からの紹介患者を優先的に受け入れる「紹</p>

	介外来」の設置や、会計の自動精算機などの導入、画像診断部門の効率的な配置などにより、トータルの待ち時間の短縮を図りたいと考えています。
--	---

(検査結果や治療内容のわかりやすい説明について)

市民意見	投薬、検査を含めた治療計画の親切な説明が重要であり、丁寧に相談に応じることで患者との信頼感を深めていくべきである。(4件)
	手軽に自分の治療に対する情報を参照できるシステムやインターネットで情報を得ることができ、さらにはサービスが受けられるような情報システムを充実させてほしい。診療・検査の情報を例えば、CD-ROM等に複写したものを提供するサービスの実現を検討してほしい。(2件)
	地域医療機関の状況が改善されないと、患者の大病院志向は変わらない。市民病院が先導して患者が知りたいと思う情報を積極的に開示することで、地域医療機関も改善されるのではないかと。(1件)
市の考え方	<p>治療は医療従事者と患者さんとの共同作業であり、検査結果や治療内容などに関する十分な説明を行い、患者さんのご理解を得て進めていくことが必要であると認識しています。そのため、今後もインフォームドコンセントに関する職員研修のより一層の充実を図るとともに、電子カルテや検査の画像データを画面で見られるシステムなどを導入し、患者さんや家族に対して検査データや治療内容などをより分かりやすく説明できるようにしたいと考えています。</p> <p>また、患者さんの人権やセキュリティ対策に十分配慮した上で、電子化された情報を活用し、希望される患者さんに対しては自分の治療に関する情報をベッドサイドなどで参照できる仕組みや、ホームページ等を通じて病院の治療成績など患者さんが求める情報を提供できる仕組みの構築が必要と認識しております。</p> <p>そこで、基本構想(案)に「<u>情報技術を活用しながら、患者さんの検査情報や病院の治療成績など患者さんが必要とする情報を適切に提供できないか検討していきます。</u>」という文章を加筆し、今後基本計画策定時に具体的に検討させていただきたいと考えています。</p>

(ユニバーサルデザインの導入について)

市民意見	身障者用に電動便座や手すりつきトイレを設置することや、院内に設置するイスや洗面所に高さの違うものを設けるなど、ユニバーサルデザインの採用に取り組んで欲しい。(6件)
	新病院でも現病院と同様に、雨の日に便利のようにバリアフリーで、駅と直結の入り口として欲しい。(3件)

	市内在住の外国人が安心して治療できる病院にしてほしい(掲示物を複数の言語で表示するなど)。(1件)
	会計受付・支払い窓口について、新病院では、車椅子利用者のことも考え広くスペースを取り、並ぶ方法も銀行と同じ方法を取り入れてほしい。(1件)
市の考え方	新中央市民病院では、病院全体にわたり、高齢者、障害者をはじめ誰もが使いやすいユニバーサルデザインの考え方に基づいた整備を図るとともに、国際化にも対応した視覚的に分かりやすい案内表示等の設備の充実を図っていきたいと考えています。ユニバーサルデザインの採用等に関する具体的なご提案については、今後構想を具体化する中で検討していきたいと考えています。

(医療情報・健康情報の発信について)

市民意見	予防にウエイトを置き、検査の充実や病気や治療に関する知識を患者と共有できるようにすべきである。(2件)
市の考え方	<p>がん、心臓病、脳血管疾患などの「生活習慣病」が増加している中、健康であるためには、自分自身の健康状態を理解し、適切な生活習慣を身につけ、主体的に取り組むことが重要となっています。</p> <p>現在も一般市民の方を対象に、「糖尿病教室」「心臓病教室」などの講演会を院内で開催し、市民の健康づくりのための取り組みを行っていますが、新中央市民病院では患者さんが利用しやすい場所に、診察の待ち時間などを活用して患者さんが自己学習できる市民健康ライブラリーや健康情報コーナーを新たに設置し、病気や治療、検査に関する知識の普及・啓発を図っていきたいと考えています。</p>

(環境にやさしい病院について)

市民意見	地球環境に配慮し、例えば太陽光、雨水利用など自然エネルギーを積極的に導入してほしい。(2件)
市の考え方	地球環境に対する配慮は、21世紀にふさわしい病院の機能として必要なことと認識しています。そこで、「 <u>環境に対する負荷を低減するため、施設の計画・建設・運営を通じて省エネルギー化・省資源化を図り、太陽光など自然エネルギーの利用や環境にやさしい材料の採用などに努めるとともに、患者の療養環境にも配慮して、例えば屋上緑化など積極的に自然を取り入れ、感じることでできる施設づくりに努めてまいります。</u> 」

	という文言を加筆し、今後基本計画策定時に具体的に検討させていただきたいと考えています。
--	---

(6)地域医療機関との連携強化 (15件)

(地域医療機関等との連携の充実について)

市民意見	本来、医療機関にはその規模や診療内容等から明確な役割分担が存在しているが、大病院に受診する傾向がある。新病院では、地域病院、開業医との役割分担を明確にし、十分な啓発を行い有機的に機能を発揮できるようにしてほしい。(6件)
	回復期に転院するにしても、転院先で同じような検査をすることがないように、病院間の連絡を十分にしてほしい。(1件)
	市民病院としては「地域医療支援病院」をめざすのではなく「急性期特定病院」までがよいのではないか。(1件)
	医療資源の効率化のためには院内開業制など、医療機器やスタッフ、環境を共有して治療が行えるような仕組みを導入してはどうか。(1件)
	地域医療機関との連携と同時に、消防・保健所との連携の充実を図ってほしい。(1件)
市の考え方	<p>地域医療機関との役割分担については、近年、一つの病院で発病初期から病気が完治するまで一貫して治療を行う院内完結型医療から、手術など高度な技術を急性期病院に集積し、患者さんはより安全で質の高い急性期医療を安心して受けられるとともに、病状が安定してからは、より療養環境の良い病院で治療が受けられるという、患者さんの病状に応じて、地域の医療機関が相互に役割分担・相互連携をして治療を行う地域完結型医療への転換が進められています。</p> <p>これまで看護相談業務・ケースワーカー業務の体制強化や訪問看護ステーションとの交流、病院訪問など地域医療機関との連携推進に取り組んできましたが、新中央市民病院では、さらに地域医療機関からの紹介、地域医療機関への逆紹介などの窓口となる「地域医療センター」を患者さんの利便性の高い場所に設置し、医療・保健・福祉に関する患者相談や地域医療機関、福祉施設、在宅医療との連絡調整を図っていきます。また、地域医療機関との連携を密にし、疾病毎に具体的な連携を行うため、複数主治医制や本院と地域の診療所等が連携して継続的に患者さんの治療を行なうための入院治療計画などの導入を検討するなど「地域完結型医療」を実践する機能の強化を図りたいと考えています。</p> <p>今後とも、地域の医療機関との適切な役割分担を図りながら、神戸市の基幹病院として、救急医療・高度医療・急性期医療を重点に担う使命を果たしてまいりたいと考</p>

	<p>えております。</p> <p>また、消防・保健所等行政機関との連携についても、救急や、感染症発生時の健康危機管理など、それぞれの役割に応じた分担・連携をより一層図ることにより市民のみなさんの生命・健康・安全を守っていきたいと考えています。</p>
--	--

(地域連携への IT の活用について)

市民意見	<p>関連研究機関や地域医療機関との連携強化の手段として、情報システムを導入し、一病院内の情報システムに留めることなく、地域医療(保健・福祉含む)システムに、将来的には発展させることが可能なシステムとして構築してほしい。(3件)</p>
	<p>将来の高齢化を踏まえ、IT を活用した在宅健診など在宅医療の推進に力を入れてほしい。(2件)</p>
市の考え方	<p>新中央市民病院では地域医療機関からの紹介、地域医療機関への逆紹介などの窓口となる「地域医療センター」を患者さんの利便性の高い場所に設置するほか、将来的には、IT を活用して患者さんや、地域の医療機関と相互に情報の共有が図れるシステムの構築を検討したいと考えています。</p>

(7) 研修・教育・研究機能の充実(9件)

(研修・教育の充実について)

市民意見	<p>現状の市民病院でも患者の立場に身を置き、患者に対する対応の内容をもっと考えるなど、市民・患者の信頼を得るため、今できる改善をして欲しい。(4件)</p>
	<p>医療・スタッフの質の向上など、ソフト面での努力をしてほしい。(2件)</p>
	<p>研修医・専攻医制度を充実させ、教育・研修の質を向上させてほしい。(1件)</p>
市の考え方	<p>患者さんの視点に立った質の高い医療を提供していくため、常に患者さんのニーズを把握し、患者満足度の向上につなげていくことが重要であると認識しています。また、患者さんとのより良い信頼関係を築くためには、患者さんの立場に立ち対応できる質の高い医療従事者の養成、確保が重要であり、現在も患者さんに対する対応研修に取り組んでいます。</p> <p>今後も、医療の質の向上のために、各種カンファレンスやワークショップ、勉強会の実施や指導医の充実など、今できることから取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>また、新中央市民病院では、引き続き臨床研修指定病院として医療を担う人材の育成に取り組むとともに、初期研修終了後の医師のための専門研修制度を拡充し、優秀な専門医の養成にも努めたいと考えています。</p>

(人材の育成・評価システムについて)

市民意見	各部門のコメディカルスタッフの配置人数の増減を現場の状況により部門を超えて派遣できるように柔軟にするとともに、どの部門でも対応できる多様性をもった人材の育成を図ることも大切である。(1件)
	質のよい医療従事者を確保するため、また、現場レベルでのコストダウンへのインセンティブを与えるため能力や評価に応じて報酬を決定する契約制の雇用やメリットシステムを導入してはどうか。(1件)
市の考え方	<p>患者さんに対しより質の高い医療を提供していくためには、医師・看護師・薬剤師・技師などがそれぞれの専門性を発揮しながら、従来の部門の壁を越えてチームを組んで医療を提供することが重要であり、柔軟な対応ができる多様性を持った質の高い医療従事者の育成、確保は不可欠であると考えています。</p> <p>そのためには、医療の質的向上などに対する貢献度を適正に評価することが必要であり、「<u>医療従事者の特性を踏まえ、医療の質や患者サービスの向上に対する貢献度などを反映させる仕組みについても、調査・検討してまいります。</u>」という文言を加筆し、今後具体的に検討していきたいと考えています。</p>

(8) 効率的な経営(34件)

(経営の効率化について)

市民意見	最新鋭のIT機器を導入し、総合システム化を図るなど、コストミニマムを実現し合理化とサービスのレベルアップを実現してほしい。(7件)
	病院経営と患者本位の医療とは矛盾することにならないか。民間の手法を導入するなど、効率的な病院経営が実施されると採算が重視され、不採算部門とされている夜間の救急医療などが切り捨てられるのではないかと。(4件)
	新病院の経営に当たっては、可能な限り民間のノウハウを活かせるサービス範囲を設定し、経営の効率化を実現して欲しい。(3件)
	患者指向に基づく健全経営なしに良質の医療を継続的に提供することはできないのではないかと。(1件)
市の考え方	<p>患者の視点に立った患者本位の医療を提供し患者満足度の向上を図るためには、そのための内部プロセス、人材の育成といった非財務的視点と財務的視点の双方からの取り組みが必要であり、患者満足度を上げる努力を進めることにより、運営の効率性も向上するものと考えています。そのため効率的な運営と患者本位の医療の提供は相矛盾するものではなく、今後も質の高い医療を提供し続けていくためにも、医療技術の進歩に伴う提供する医療そのものの変化や患者ニーズの変化などに適切に対応できる経営基盤を確立することが不可欠と考えています。</p>

	<p>新中央市民病院においても、引き続き高度・救急医療などの不採算医療に取り組むことで公的責任を果たしながらも、電子カルテをはじめとする病院のIT化の推進による業務の効率化や、全病床を一元的に管理する「病床管理者」の設置による病床運用の効率化、画像診断部門の統合や放射線治療部門の統合による効率的な運用のほか、物品の共同購入や業務の更なる委託化なども検討し、より健全な病院経営を目指していきたいと考えています。</p>
--	---

(外部評価について)

市民意見	<p>病院機能の評価について、完全な第3者評価委員会を立ち上げてほしい。(1件)</p>
市の考え方	<p>現在、中央市民病院では、第3者機関による外部評価として日本医療機能評価機構による病院機能評価を一昨年度に受審し16年1月に認定を受けています。また、外部委員を含む「経営計画委員会」を設置し、市民病院群の中期計画の策定や経営改善に取り組んでおります。さらに、昨年度から実施している「患者満足度調査」を今後も継続的に実施し、結果を公表するなど患者意識の把握を通じて、院外の人による評価を可能な限り経営改善や患者サービスの向上につなげるほか、新たな外部評価システムを検討し、より健全な病院経営を目指したいと考えています。</p>

(画像診断部門の一元化について)

市民意見	<p>救急専用検査室の設置や専門医療センター構想と診断治療機器の一元管理は矛盾するのではないかと。(1件)</p>
市の考え方	<p>新中央市民病院では、現在院内各所に分散している画像診断部門を統合した上で映像医学センターを新設し、患者さんに最も適した画像診断が実施できる仕組みを構築するとともに、映像医療情報の一元管理を行うことを考えています。この結果、患者さんの移動距離が短くなることで待ち時間の短縮や、患者サービスの向上・効率的な医療提供にもつながるものと考えています。</p> <p>救急部門については、救急車到着後、今まで以上にすみやかに診断を確定し、治療を開始することが必要であるため、救急医療に適した必要最小限の機器を専用化したり、救急専用検査室を設置することを考えており、相矛盾するものではないと考えています。</p>

(医療安全対策の強化について)

市民意見	<p>医師・看護師等医療スタッフを増員し、安心して任せられる病院にして欲しい。(10件)</p> <p>感染しにくい機材や設備の導入、個室を増やす、医療ミスを報告・公表し再発防止につなげる仕組みなど市民が安心して利用できるような医療安全対策の充実を図ってほしい。(3件)</p>
市の考え方	<p>新中央市民病院においても、果たすべき役割や機能に応じた適切な人員体制を確保し、安心して治療が受けられるようにしていきたいと考えています。</p> <p>医療安全対策については、病院を運営していくにあたって、最も基本的で重要なことであると考えており、現在も、リスクマネジメント委員会を設置し、医療行為の安全対策の検討や院内事故防止のためのマニュアル作成、職員研修など医療事故防止に向けた取り組みを行っています。</p> <p>新中央市民病院においては、これらに加え、医療安全対策を担当する専従職員を配置するなど機能強化を図り、医療事故や院内感染を組織として防止できる仕組みを構築し、より安全で安心な病院づくりを目指していきたいと考えております。</p> <p>現在、患者相談窓口の設置や医療事故の公表基準の作成について検討しているところですが、基本構想(案)にも、「さらに、患者のための医療相談窓口を充実することや医療事故の公表基準を作成し再発防止につなげる仕組みを作るなど、安全で安心な病院づくりを目指していきます。」という文言を加筆し、今後具体的な検討を進めていきたいと考えています。</p>

(弾力的な運用が可能な施設構造について)

市民意見	<p>将来の建て替え用地の確保(当面は公園などとして活用)や各種配管類を外部に露出させるなど、新病院が老朽化した場合の対応策を考えておく必要がある。(4件)</p>
市の考え方	<p>新中央市民病院では、将来の設備更新のほか、医療技術の進歩や患者ニーズの変化への対応を想定しておくことが重要であると認識しています。</p> <p>今後、基本構想に引き続き施設計画を含む基本計画を策定していく中で、弾力的な運用や容易に設備更新ができる施設構造について、いただいた意見も参考に、具体的に検討をしていきたいと考えています。</p>

2. 病床規模の設定 (54件)

(必要病床数の考え方について)

市民意見	病床数を減らさないでほしい。(20件)
	入院の順番待ちが更に長くなるのではないか。(9件)
	まだまだ療養の必要な患者が、新入院患者のために追い出されることになるのではないか。(6件)
	病床数を今よりも増やしてほしい。(6件)
	生命に関わらない病人は入院できなくなるのではないか。(4件)
	日本の急性期病院の平均在院日数が減少している中で、当然必要のない病床数が発生する。その環境を経営計画の一環として現状維持にこだわらず、計画するのは、当然のことと思う。(3件)
	質の高い病院の病床数は減らさないでほしい。(1件)
	病床利用率95%というのは、常時入院待ちの状態ではないか。80%ぐらいが必要な時に入院できる適切な状態ではないか。(1件)
	先端医療センターの病床数を足して、今の病床数を増やしてほしい。(1件)
	減床することにより救急医療が後退するのではないか。(1件)
市の考え方	<p>新中央市民病院の病床数を検討するにあたっては、近年の入院患者数の減少傾向に加えて、医療制度改革の中で、より質の高い医療を行うため、厚生労働省が示している「地域完結型医療」といった将来の医療提供体制の方向性、兵庫県保健医療計画において約1500床の病床過剰地域とされた神戸医療圏の状況、少子高齢社会の到来に伴う受診機会の多い高齢者人口の増加といった外部環境や、入院手術の日帰り化や術前の検査・指導の外来化、医療技術の進歩に伴う平均在院日数の短縮化、混合病棟を基本とした病棟構成や全病床を一元的に管理する「病床管理者」の設置による効率的な病床運用、といった要素を考慮して試算した結果、600床程度で神戸市の救急・高度・急性期医療を担う基幹病院としての役割を果たしていけると考えています。</p> <p>病床数を減らしても、救急医療の規模縮小は考えておらず、むしろ、救急専用検査</p>

	<p>室や経過観察用ベッドの設置などにより機能の充実を図るほか、24時間365日対応できる人員体制についても確保していきたいと考えています。</p> <p>また、大規模事故災害などの発生時には、処置室のほか病室に転用できるよう医療用配管など必要な設備を備えた共用の会議室などを整備することで適切な対応ができるようにしたいと考えています。</p> <p>さらに、患者さんに対しては、詳細な入院治療計画をお示ししながら、標準的な入院期間やその間の治療計画などをこれまで以上に十分に説明し、納得の上入院していただくよう努めるとともに、地域医療機関とのスムーズな流れを整備し、退院や転院に不安を抱かないよう仕組みを整えたいと考えています。</p>
--	---

(政策医療等に必要な病床について)

市民意見	<p>公的病院の過剰なベッドは、小児救急の受け入れベッド、SARS等の流行性疾患、痴呆や精神疾患の患者に対する入院の場所として確保しておくべきではないか。(1件)</p>
市の考え方	<p>新中央市民病院では、基本的な考え方の第一番目に地域医療機関との連携や役割分担のもと、救急医療・高度医療・急性期医療を重点に担い、24時間365日市民の生命と健康を守ることを掲げており、小児救急や、SARS等の新興感染症への対応などについては、必要な病床数を確保していきたいと考えています。</p> <p>精神科救急については現在、「精神科救急システム」を兵庫県が実施しており、平日夜間及び休日などの昼間の精神症状の急発・急変に対応する入院治療のための空床を神戸・阪神ブロックで1床、播磨ブロックで1床を確保しています。なお、市民病院群では精神病院に入院中の患者さんが身体合併症を併発された場合、西市民病院に身体合併症病床を4床確保し、役割分担を図っています。</p> <p>今後とも、他の市民病院群や地域医療機関との連携や役割分担の中で、救急医療・高度医療・急性期医療を重点に基幹病院として必要な機能・役割を担っていきたいと考えています。</p>

3. 立地場所と施設概要 (255件)

(医療機能改善の観点について)

市民意見	<p>設備の老朽化が不安であり、医療技術の進歩や医療環境の変化に対応するためには、現地改修では費用の割りに、十分な機能が整備できず、かえって不便で効率も悪くなり、移転新築を選ぶほうがコスト面、工事中の利便面を考えると有利である。(21件)</p>
	<p>設備の老朽化への対応、高度先進医療の提供、患者・家族の癒しと安らぎへの環境への配慮など、ポートアイランド2期である必然性がなく、現在の建物の有効利用、改築を考える中で解決できるのではないかと。(14件)</p>
	<p>設備の老朽化、感染症対策など現施設の問題点を解消するとともに、より医療を充実させ、最良の医療が受けられるよう是非病院を新築してもらいたい。(7件)</p>
	<p>配管などの老朽化や、医療機器の進歩による設備変更などは、予測したはずで、現地でなぜできないのか。(2件)</p>
市の考え方	<p>移転新築の場合、現在院内各所に分散し非効率となっている画像診断部門などの配置を抜本的に見直すことで十分な医療機能の改善や患者動線の改善が図れます。また、外来の診察室でのプライバシーの配慮や、手術部門、集中治療部門での適切な待合空間、癒しと安らぎの環境の整備が十分にできるほか、病棟では個室感覚の4床室の配置や、十分な広さと利便性をあわせもったデイルームや患者食堂の設置など患者さんの視点に立った療養環境の改善が可能です。</p> <p>一方、現地改修では、病棟部門の床荷重の制約や、低層部の柱間隔の制約があるため、これらの機能改善が十分にできないほか、耐用年数を経過した配管類や電気設備などの更新や、新たな機能を付加するための全面改修が簡易にできるような構造にはなっておらず、改修工事を実施する場合は、病院機能の一部を停止し、長期に渡って工事を行う必要があります。</p> <p>また、改修期間中は工事に伴う振動や騒音等により入院患者・外来患者さんにご迷惑をおかけするほか、精密な医療機器への影響も避けられないことから、現在の医療機能を維持しながら改修工事を行うことは事実上不可能であると考えています。</p>

(先端医療センターとの連携の観点について)

	<p>設備の老朽化への対応は必須であり、この際医療産業都市構想が着実に進展しているポーアイ二期に移転新築し、先端医療拠点施設と隣接することで、より高度・良質な医療が受けられる最先端・最新鋭の市民が誇れる病院になってほしい。(21件)</p>
市民意見	<p>先端医療センター等の研究成果を市民に還元してもらいたい。そのためセクショナルリズムを取り除いて新中央市民病院と先端医療センターが医療機器や病室を一体的に整備・運営をしていくことが望ましいのではないかと。(5件)</p>
	<p>市民の生命と健康を守るよりも、ポーアイ2期の空き地を少なく見せ医療産業都市を推進するための移転ありきの構想に他ならない。(4件)</p>
	<p>市民病院は市民のためのもので先端医療センター附属病院では困る。(4件)</p>
	<p>先端医療センターにおける先端医療は、99.9%の患者は無縁の疾患であり、新市民病院の本来の機能の中では、小さなことであり医療に対する姿勢を正しく認識してほしい。(2件)</p>
	<p>医療産業都市構想の中核施設である先端医療センターと、市民生活に直接関わる市民病院とは、機能・性質を異にするものであり、先端医療センターとの結びつきを強めることによって、市民医療が後退する恐れがある。(2件)</p>
	<p>先端医療の将来は不透明であり、先端医療センターと連携して効率的に医療を行う環境が整うか疑問である。(1件)</p>
	<p>先端医療センターとの一体性を目指す方向性は標準医療を中心に、日常市民医療に専心・奉仕すべき使命から実験医療に逸脱することは明白である。市民に対する公正公平な思想の保証はなく、倫理・個人情報セキュリティを考え合わせると、憂慮に耐えない。(1件)</p>
	<p>医学・治療において、新しい医療の研究・開発と病院の連携は当然のことである。(1件)</p>
市の考え方	<p>先端医療センター隣接地に移転新築することで、先端医療センターの最先端の機器・設備や人的資源の活用、中央市民病院の医療従事者への技術や知識のスムーズな移転といったメリットを最大限に活かすことができ、市民をはじめ、より多くの人にいち早く高度先進医療を提供していくことができるのではないかと考えています。</p> <p>具体的には、先端医療センターの最先端の医療機器を用いて、例えばPETを使ってがんの早期発見を図ることや、ピンポイント照射が可能なCTライナックを使って、正常な細胞への影響を少なくした正確な放射線照射による治療など、より体への負担や副作用の少ない医療が効率的に実施できるようになると考えています。</p> <p>また、糖尿病の進行などに伴う足の血管の閉塞により、足の切断を余儀なくされる</p>

	<p>病気や、心臓の血管の閉塞により、バイパス手術や心臓移植が必要となる病気に対する血管を再生する治療、歯周病により歯が抜けやすくなる病気に対する歯の土台となる骨を再生する治療など、先端医療センターで開発された新しい医療技術を、安全性・倫理性・科学性が認められ高度先進医療等として臨床に導入された段階で、速やかに従来の方法では対応が困難な病気の治療に還元し、患者さんの QOL (生活の質) の改善を図りたいと考えています。</p>
--	--

(財政的な問題の観点について)

市民意見	<p>神戸市財政が苦しい時に無駄に税金を使うことはない。(3 1 件)</p>
	<p>改修は困難であるが、現地改修のほうが安く済むならそれが適切ではないか。(1 9 件)</p>
	<p>移転するのにかかる経費を地域医療の充実や福祉医療助成金等の福祉予算にあてた方がよいと思う。(8 件)</p>
	<p>財政難だが、病院はお金では買えない市民の命を守る、必要不可欠な公共施設であり、何よりも優先して新病院を整備し、医療施設の充実を行ってほしい。(2 件)</p>
市の考え方	<p>財政的な問題の観点からは、24 時間 365 日稼働している現病院を閉鎖して、改修を行うことは不可能であるため、診療行為を続けながらの改修工事となり、工期が長期に渡ることや、診療機能の移転を繰り返しながら工事を行うための仮設工事や、精密な医療機器などへの対策工事が発生するほか、病棟の一部閉鎖など診療行為を制限することに伴う工事期間中の収益悪化をあわせ考えれば、現地改修も移転新築と大きく変わらないと考えています。</p> <p>財政状況が厳しいとはいえ、新しい医療技術、環境への対応や患者ニーズの変化への対応を怠る場合には、患者さんを引き付ける力を失い、より経営状況を悪化させることもあることや、当面の投資額を抑えるために一部改修をする場合には、結局将来投資が必要となりかえって二重投資となることから、必要な整備を先送りにするわけにはいかないと認識しており、現病院開院後 30 年となる平成 22 年度の開院を目標に 21 世紀にふさわしい機能を備えた病院を実現したいと考えています。</p> <p>新しい中央市民病院では、より質の高い医療の提供と、自立した病院経営のため、整備・運営を通じてできるだけ財政負担が少なくなるよう、P F I 方式を含めた事業手法の検討など、更なる民間のノウハウの導入を図ることなどにより、これまで以上に健全な病院経営を目指していきたいと考えております。</p>

(患者の利便性の観点について)

市民意見	ポータライナーによるアクセスが複線化により幾分か改善されても、今より遠くに移転することにより、通院や見舞いの時間的負担、経済的負担が大きくなり不便になるのではないか。(27件)
	今より遠くに移転することにより、1分1秒を争う救命救急や小児への急病への対応にも大きく影響するのではないか。(23件)
	今でも、交通の便が悪く、高齢者や見舞いの家族の負担となっている。移転が必要なら市民の生活に近い場所に移転すべきである。(23件)

	距離的に遠くなるが、現状と大差ない上、新しい神戸の表玄関である神戸空港の空のルートのほか、陸のルート、海のルートからアクセスできるポートアイランド2期は妥当である。(5件)
市の考え方	<p>移転新築の場合、現在地と比べ、直線距離で約1.3km市街地からの距離は遠くなるため、救急患者や外来患者の病院への到着時間がやや長くなりますが、救急搬送患者については、救急部門と手術部門の動線改善や画像診断部門の一体的配置など患者の立場に立った効率的な施設配置が実現できることにより、これまで以上に診断確定、治療開始までの時間短縮が図れること</p> <p>外来患者については、外来患者の半数以上はポータライナーで来院されており、ポータライナーの複線化により往路については現状と比べ3分程度時間を要するが、復路については5分程度短縮され、利便性は一定確保されること</p> <p>自家用車で来院される患者さんのために、十分な駐車場を確保できることにより、駐車待ち時間の緩和が図れること</p> <p>などから、現在地と比較し、距離はやや遠くなるものの大きな利便性の低下にはならないのではないかと考えています。</p> <p>また、特に一刻を争う心臓停止や呼吸停止患者に対する救命救急においては、救急隊員が到着するまでの応急手当や、救急隊員による適切な救命手当など病院到着前の医療(プレホスピタルケア)と救命救急センターによる高度な医療が連携して行われることが重要とされており、現在、病院の医師の指示のもと救命救命士が活動するメディカルコントロール体制を消防局と連携して整えているところです。</p> <p>立地場所については、市街地からの距離だけでなく、医療機能改善の観点、先端医療センターとの連携の観点に加え、財政的な問題の観点から総合的に判断しましたが、現在地と同様の公共交通機関によるアクセスが確保され、かつ十分な敷地面積を備えた適地が他にないことから、ポートアイランド第2期の先端医療センター隣接地へ移転新築することが妥当であると考えています。</p>

(候補地の立地条件について)

市民意見	<p>ポートアイランドは震災の時に、アクセスが遮断され機能しなかった教訓が生かされていない。移転するのなら別のところにつくるべきだ。(9件)</p> <p>埋立地は、地盤が不安定で地盤沈下や地震のときの液状化現象が起こりやすい。また、来るべき南海地震等の際の津波や高潮などの影響を受けやすく適地でないのではないか。(8件)</p>
市の考え方	<p>ポートアイランドへのアクセスについては、震災後、港島トンネルの完成により、神戸大橋のみならず陸の第2ルートを確保し、充実を図っています。</p> <p>また、地盤沈下など埋立地に起因する課題については、新中央市民病院の移転新築予定地は、建築物への沈下に伴う影響が発生しないように、既に地盤改良などを実施しているほか、津波や高潮などによる被害を受けない地盤高で造成されており、特に、当該地域が他の地域と比較して災害の影響を受けやすい場所とは考えていません。</p> <p>新中央市民病院では、「災害に強い病院」として、免震構造や制震構造の導入や、ライフラインの二重化を検討するなど、病院施設自体も自然災害等に十分対応できるよう機能強化を図っていきたいと考えています。</p>

(建替の必要性について)

市民意見	<p>震災後の調査では、構造自体に問題はなしと報告されているのにどうして建て替えなければならないのか。(4件)</p>
市の考え方	<p>震災後の「構造体調査」は、阪神・淡路大震災を受けた後での、構造躯体の安全性を確認したものです。この調査により、構造躯体の安全性は確認されましたが、現地に開設以来24時間365日稼働し続けている配管類・設備の更新や、医療技術の進歩や患者ニーズの変化に対応した施設整備は、今後も基幹病院として質の高い医療を提供していくためには避けられない課題となっています。</p> <p>このような設備の老朽化に加えて、医療技術の進歩やより効率的な医療提供に対する対応や患者・家族に対する癒しと安らぎの環境への対応が不十分という現病院の課題を解決するために、医療機能改善の観点、先端医療センターとの連携の観点、財政的な問題の観点に加え、患者さんの利便性を大きく損なわないかといった観点から移転新築と現地改修を比較した上で総合的に判断し、患者の立場に立った効率的な施設配置・動線の改善、環境整備がより効果的に実現できることや工事中も診療行為を制限することなく市民の生命と健康を守り続けられること、現地改修と比較し、財政負担も遜色ないことなどから、移転新築する必要があると考えています。</p>

(一部移転等について)

市民意見	<p>先端医療等に施設が必要であれば、それに必要な部分だけ移転させればよいのではないか。(2件)</p> <p>懇話会での議論の際提示された現地改修案のうち、新棟増築型は十分に検討に値するのに全面移転にしぼって提案されたことは唐突である。(1件)</p>
市の考え方	<p>ご提案の病院機能の一部移転は、病院機能が2箇所に分離されることとなりスタッフや医療機器などが二重に必要となることや、機能の一部を移転するとはいえ現病院の施設全体に共通する設備類の更新を行うためにはどうしても全面的な改修工事となることから、基本構想(案)で示した移転新築案より整備・運営を通じて非効率となると考え、具体的な比較対象とはしませんでした。</p> <p>また、基本構想(案)の策定に先立ち、平成14年度を中心に学識経験者、医療関係者、住民・各種団体代表者などに参画いただき開催した「中央市民病院の基本構想に関する懇話会」では、詳細な機能や病床数も未確定でしたが移転新築案とは別に、増築棟を建設し、機能拡充を図る現地改修案などを示し、議論の参考にしていただきました。</p> <p>基本構想(案)では、「懇話会」での議論の際の新棟増築型に相当する現地改修案と移転新築案の両方を比較した上で、医療機能改善の観点、先端医療センターとの連携の観点、財政的な問題の観点に加え、患者さんの利便性を大きく損なわないかといった観点から総合的に判断し、移転新築が妥当という考え方をお示ししています。</p> <p>現地での一部改修は、機能改善や効率的配置に限界があることや、給食・検体などの搬送設備のような全館に共通する設備類の改修はいずれにせよ行う必要があることに加え、改修後劣化度が進めば引き続き劣化した設備類への再投資が順次必要になり、一定の期間での投資額でみるとかえって非効率であると考え、具体的な比較対象とはしませんでした。</p>

(騒音の影響などについて)

市民意見	<p>さらに南に移転し、空港の近くに行くことで、騒音の影響など、環境面の問題が生じるのではないか。(2件)</p>
市の考え方	<p>神戸空港は、市民の日常生活に騒音の影響を及ぼさないようにするため、ポートアイランド第1期の南約3kmの海上空港として整備しており、航空機騒音の環境基準値である「うるささ指数(WECPNL)70」を超える範囲は、全て海上に収まると予測されており、現時点では特段の対策を講じる必要はないと考えております。</p>

(アクセスに関する配慮について)

市民意見	病院までのアクセスに関する配慮として、三宮等市内主要地から無料バス運行等、配慮ができないか。(2件)
	遠くなることの不便さについて、可能な限りの回避方法を検討すべき。(1件)
	病院までのアクセスに関する配慮として、ポートライナーの運賃等について年金受給者等高齢者の免除は考えられないか。(1件)
市の考え方	中央市民病院までのアクセスについては、鉄軌道であるポートライナーの最寄り駅から徒歩で行けることから、現在も三宮など市内主要地からのバス運行など特段の対策は行っていません。新中央市民病院でも、ポートライナーの最寄り駅から徒歩で行けることから、既存公共交通機関でのご利用をお願いしてまいりたいと考えています。

(ポートライナーの運行について)

市民意見	ポートアイランド2期北駅までのポートライナーの速度を上げることや、交通費を値上げしないことなどで、患者や家族が通いやすく負担の少ないようにして欲しい。(2件)
市の考え方	<p>新中央市民病院の移転新築予定地は、現在地より1.3km南になりますが、現在複線化工事を行っているポートライナーの(仮称)ポートアイランド第2期北駅に近接するため、現在地同様公共交通機関によるアクセスなど、一定の利便性が確保できると考えています。</p> <p>ポートライナーの運行速度や、運賃などについては、外来患者さんの約50%がポートライナーを利用されていることから、頂いたご意見の趣旨は事業主体である神戸新交通株式会社に要請してまいります。</p>

4. 運営形態と経営改善(2件)

市民意見	経営陣のブレンに医師を配置することは必要不可欠であるが、病院経営は医師が行う必要はなく、経済・経営・医療行政などに秀でた人物が担当するべきである。(1件)
	市民の健康維持・促進のため中央市民病院の運営に責任をもってほしい。(1件)
市の考え方	<p>中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、救急医療、高度医療、急性期医療を提供する使命を果たしてきており、市民の評価を含め一定の成果をあげていると考えています。</p> <p>しかしながら、医療を取り巻く環境が年々厳しくなっている中、新しい中央市民病院の整備・運営にあたっては、これまで以上に運営の機動性、独立性、透明性の向上を図り、より効率的な病院運営を行うことで、経営責任を果たす必要があると考えています。地方公営企業法の全部適用や地方独立行政法人制度といった運営形態自体の見直しを含め検討し、今後も、市民の生命と健康を24時間365日守ることで公的責任を果たしていきたいと考えています。</p>

5. 整備手法と整備スケジュール(32件)

(整備手法について)

市民意見	整備手法にはPFIの導入など、運営・施設の両面に一貫性を持たせられる方式で実施すべきである。(2件)
	複雑な病院機能に対してPFIに頼らず自らの責任により企画運営し、利用者へのサービスを提供していくべきではないか。(1件)
	PFI方式を選択した場合、特定の企業が主体になりやすく、長い目で見た場合、必ずしもコストが安くなるとは言えないのではないか。(1件)
	単にPFIを導入すればすべてが解決するわけではない。導入にあたっては行政側で組織横断的なプロジェクト体制をとり、取り組む必要がある。(1件)
	PFIを医療に活用することになれば株式会社方式による医療経営同様、「儲かる病院への特化」につながるのではないか。(1件)
市の考え方	<p>新中央市民病院の整備手法としては、市が資金調達をし、整備を行う起債方式と、民間事業者が資金調達をし、整備と運営の一部を行うPFI方式があります。</p> <p>PFI方式は、民間事業者による設計・施工・維持管理の一括発注により施設の一生を通じた総費用の管理や民間のノウハウが発揮しやすいため、公共部門で整備、運営を行うよりも財政負担の軽減や民間のノウハウの活用によるサービス水準の向上が期待できるといわれており、公的責任を果たしつつも官民の適切な役割分担の</p>

	<p>と、公共サービスをより効果的、効率的に提供するための手法として既に自治体立病院で事業化されている例もあることから、選択肢のひとつと考えています。</p> <p>しかし、病院PFI事業では、医療行為自体は委託できませんが、委託可能な業務であっても医療行為と密接に関連する業務があり、民間事業者に委ねる事業範囲や、長期間に渡り良質なサービス水準を担保するためのモニタリングの仕組みづくりなどについて、より慎重に検討する必要があると考えています。</p> <p>いずれの手法を採用するかについては、今後基本構想に引き続き、運営、施設の両面における更に詳細な検討を行い、基本計画を策定していく中で、財政負担の比較などを実施し決定していきたいと考えています。</p>
--	---

(資金調達について)

市民意見	財政難だというのに資金はどうやって調達するのか。(6件)
	整備手法(財源調達)について今後の課題とされているが、現段階で同時に提示するのが望ましいのではないかと。(1件)
	新病院建設にあたっては、県の負担金を貰うことを前提にした建設としていくことが望ましいのではないかと。(1件)
市の考え方	<p>中央市民病院の今後のあり方については、より良い病院を実現するため、企画段階から広く市民のご意見を伺い、できるだけ計画に反映していきたいと考え、基本的な考え方の骨子がまとまった段階で基本構想(案)として公表しました。現在資金調達の選択肢として検討している起債方式とPFI方式は、いずれも長期借入金や長期契約により財政負担の平準化が図れる手法となっていますが、いずれを採用するかについては、今後、基本構想に引き続き、より詳細な施設内容や運営方法を検討し、基本計画を策定していく中で、より具体的な条件のもとで財政負担を比較し決定していきたいと考えています。</p> <p>また、中央市民病院は、現在も地域の医療機関で提供できないような高度な医療を提供し、市内に限らず市外からも入院・外来とも約2割の患者を受け入れているほか、救命救急センターとしても市外患者を毎年約5千人受け入れるなど、広域的役割を果たしています。</p> <p>新中央市民病院の整備・運営にあたっては、このような役割・機能に応じた応分の負担を県に対しても要望してまいりたいと考えています。</p>

(整備スケジュールについて)

市民意見	築24年以上の建物は他にもたくさんあるのに、耐用年数も経過していない築24年で老朽化を論じるのは早すぎる。(10件)
	早急に新しい病院をつくり、市民が安心して医療が受けられるようにしてほしい。(6件)

	市の苦しい財政を考えれば、ひとまず移転は将来に延期すべきである。(2件)
市の考え方	<p>現施設は、配管類を中心とする設備の老朽化が課題となっていますが、診療行為を制限することなしに病棟や診療部門の天井裏などに設置された各種配管を抜本的に更新することは不可能であるため、現在まで実施できていません。そのため、このような耐用年数を越えた配管等に起因するトラブルへの一時的・緊急避難的な修繕・改良工事に毎年多くの費用を要しています。また、電気設備類にも、機器の旧式化により補修部品の調達が困難なものも出てきています。</p> <p>そのため、更に抜本的な対策を先送りすることは、結局二重投資となり却って非効率であることに加えて、24時間365日稼働している病院の診療行為にも支障を来たす可能性があることを認識しています。</p> <p>また、先般、日本医師会と四病院団体協議会等が実施した病院等の耐用年数調査では、過去5年以内に実際に建替えられた建物の平均使用年数は31年という結果が出ており、現施設も新中央市民病院開院予定の平成22年度には、30年となることから、決して早すぎることはないと考えています。</p> <p>中央市民病院は、24時間365日市民の生命と健康を守る最後の砦であり、財政状況が厳しいとはいえ、必要な整備を先送りにするわけにはいかないことから、できるだけ財政負担が少なくなる方法を検討し、21世紀にふさわしい、より質の高い医療を提供できる病院を実現していきたいと考えています。</p>

その他の検討事項 (20件)

(1) 施設・設備面での具体的な検討 (14件)

(療養環境について)

市民意見	「自動監視システム」を設置し、立ち入り禁止区域や不審者をチェックできるシステムを導入してほしい。(1件)
	採尿コップを入れるロッカーの設置等プライバシーに配慮してほしい。(1件)
	患者・家族が散歩できるように、ポートアイランド二期の緑地を利用してほしい。(1件)
	リハビリ患者のメニューの一環として、いかなる状況でも対応可能な可変床式プールを設置してはどうか。(1件)
	リハビリへの通路は平坦にし、リハビリ室は一人でも自由にできるように広くしてほしい。(1件)
市の考え方	<p>新中央市民病院の実現を図るためには、更に施設・設備・運営面での詳細かつ具体的な検討を進めていく必要があります。セキュリティの確保やプライバシーの配慮など病院施設や病院運営に関する具体的なご提案については、今後、基本構想に引き続き、施設計画を含む基本計画を策定していく中で検討させていただきたいと考えてい</p>

方	ます。
---	-----

(駐車場について)

市民意見	駐車場を十分に確保し無料化あるいは低額化してほしい。(4件)
	「ETC 技術を活用した駐車場システム」によりスムーズな入退場サービスをしてほしい。(1件)
	駐車場の入り口ゲートを増やしてほしい。また、身障者用駐車場は不足していると思われるので、身障者用の台数を増やして欲しい。さらに、雨の日のための屋根を設置して欲しい。(1件)
市の考え方	<p>現在、身障者用5台を含む221台分の駐車場を確保しておりますが、外来患者の集中する午前中には駐車場の入庫待ちが生じており、課題のひとつであると認識しています。駐車時間は治療等にかかる時間とも関係することから、待ち時間短縮に努めるとともに、駐車料金の見直しを検討しているところです。</p> <p>新中央市民病院では、公共交通機関の利用が困難な来院者数に応じた適正な駐車台数の確保を行うとともに、駐車場施設などに関する具体的なお提案についても、今後構想を具体化する中で検討させていただきたいと考えています。</p>

(携帯電話について)

市民意見	携帯電話が自由に使える病院であれば、入院患者・通院患者の利便性が向上するのではないか。(1件)
市の考え方	<p>現在、病院内では携帯電話は使用不可としていますが、全国的にはマナーモードを前提に場所を限定して、病院内で携帯電話の使用ができる医療機関もあります。今後は、医療機器等に影響を及ぼさない範囲内で、マナーモードを前提に病院内で携帯電話を使用していただけよう現在病院内の「患者サービス委員会」で検討を進めています。</p>

(利便施設について)

市民意見	小さい子どもに親が付き添えるような個室あるいは安い費用で泊まれる付き添い家族専用の宿泊施設をつくってほしい。(1件)
	病院の近隣に患者・家族用の商品も整えられる施設や家族が食事のできる場所があればよいと思う。(1件)
市の考え方	<p>新中央市民病院の特徴の一つとして、「患者・家族の視点に立った環境整備」を掲げていますが、新病院では医療提供側の視点だけでなく、患者・家族の視点</p>

考 え 方	<p>に立ち、安心して治療や診断が受けられるような環境整備を行いたいと考えています。</p> <p>特に、小児の入院の際には、こどもの不安を和らげるため、ご家族が長期間付き添うケースが多々ありますが、新中央市民病院では、このようなご家族の身体的負担を緩和するためにも何らかの施設の配慮ができないか、今後基本構想に引き続き、基本計画等を策定していく中で、具体的に検討していきたいと考えています。</p> <p>また、病院の付帯施設や周辺の利便施設についても、必要性は認識しており、今後、民間事業者の知恵を活用することも含めて検討していきたいと考えています。</p>
-------------	---

(2)跡地利用（6件）

市 民 意 見	跡地をどうするのか、早期に検討すべきである。（3件）
	病院建物の跡地については、1階に診療科別かかりつけ医院、2階に薬局、3階以上を仮眠室とし、24時間救急医療の提供が可能な仕組みを作ってはどうか。（1件）
	長期療養型施設に転用できないか。（1件）

	現在の病院の建物を壊すのはもったいない。（1件）
市 の 考 え 方	<p>現施設は、診療行為を続けながら全面改修を行うことには限界がありますが、構造体自体に問題はなく、機能を新中央市民病院に移転した後は、建築、設備の両面に渡る大幅な改修を行い、有効活用を図ることが可能と考えています。</p> <p>跡地利用については、基本的には、できるだけ民間の知恵や資金を活用しながら、地域住民の方をはじめ市民の健康・福祉の向上に役立つ形で再整備することなどにより、まちづくりにも寄与できるよう、新中央市民病院開院までの具体的なスケジュールを視野に入れながら、検討していきたいと考えています。</p>

その他（４７件）

(基本構想(案)の情報提供のあり方について)

市民意見	情報公開が不十分。市民への説明が足りないのではないか。(13件)
	市民の声をもっと聞くためにも公聴会を開くべき。(8件)
	「広報こうべ」の記載が不十分。老朽化の理由や他病院の事例、構想(案)について(事業費、病床数減、移転理由等)掲載すべきである。(5件)
	病院を利用する市民に情報を広く開示し長期間にわたり意見を募集し、案を修正していくのがよいのではないか。(3件)
	構想(案)概要には現地改修と新築のコスト比較や工期等の記載がない。市民へ明示すべきではないか。(2件)
市の考え方	<p>基本構想(案)は、学識経験者、医療関係者、住民・各種団体代表者などで参画いただき議論いただいた「中央市民病院の基本構想に関する懇話会」の報告書や「市政アドバイザー調査」、「患者満足度調査」の結果など外部からの多方面にわたる意見も十分考慮して策定いたしました。</p> <p>案の公表にあたっては、「広報こうべ8月号」に掲載し、市民意見の募集もあわせて周知いたしました。内容については、紙面に限りがあるため簡単な概略を掲載し、詳細がわかる基本構想(案)やその概要版については、中央市民病院や各区役所等で配布するとともに、インターネット上でも全文を公表しました。</p> <p>そしてこのたび、基本構想案をより良いものとするため、多様化する市民ニーズに対応し、計画段階において市民の知恵を取り入れる仕組みとして定められた「神戸市民の意見提出手続に関する条例」に準じ、市民意見を募集したところです。</p> <p>今後も、引き続き新中央市民病院整備の基本的な考え方などについて、出前トークやホームページ等を活用するなど様々な手段を用いて、ご理解を求めています。</p> <p>また、今後も患者満足度調査を継続して実施するなど、できるだけ市民意見や患者意見を新しい病院づくりに反映させ、より良い病院を実現できるよう、努めてまいります。</p>

(事業収支に関する情報提供について)

市民意見	しっかりとした事業収支を含め情報提供する必要があるのではないか。(4件)
市の考え方	中央市民病院の今後のあり方については、より良い病院を実現するため、企画段階から広く市民の意見を伺い、できるだけ計画に反映していきたいと考え、基本的な考え方の骨子がまとまった段階で基本構想(案)として公表しました。今後、基本構想に引き続き、より詳細な施設内容や運営方法を検討し、基本計画を策定していく中で、より具体的な条件のもとで事業収支についても示していきたいと考えています。

	<p>病院事業の事業収支は、15年度決算では経営改善に対する取り組みの効果が表れてきています。今後も不断の努力を傾けるとともに、より効率的な運営方法を検討し、新中央市民病院の整備・運営に必要な財政基盤を確立できるよう努めてまいります。</p>
--	---

(懇話会試算に関する情報提供について)

市民意見	<p>事業費について「懇話会」時に試算されていた投資額との違いを説明する必要があるのではないか。(1件)</p>
市の考え方	<p>「中央市民病院の基本構想に関する懇話会」では、一定の概略の粗い前提条件のもと行った「リニューアルパターン別事業費の概算」も参考にしながら議論いただきました。その時点では、有すべき医療機能や目指すべき患者サービスの内容が決まっておらず、病床数も異なるので今回の構想案には記載しませんでした。</p> <p>基本構想(案)では、具体的な医療機能、患者サービスを想定した上で、現地改修案と移転新築案について投資試算結果を示して比較しているところです。「懇話会」での試算と「基本構想(案)」での試算は目的や前提条件(病床数、1床当たり面積、医療機能や患者サービスの具体化に伴う工事範囲)が異なることから、試算結果にも差があることをご理解いただきたいと思います。</p>

(わかりやすい表現について)

市民意見	<p>UD(ユニバーサルデザイン)等、横文字、カタカナ語は理解しづらいので、できるだけわかりやすい表現にしてほしい。(1件)</p>
市の考え方	<p>基本構想(案)の中には医療の専門用語のほか、ご指摘のような分かりにくい表現がありましたので、新中央市民病院整備の基本的な考え方に対する理解をより深めていただくため、基本構想の策定にあたっては、用語解説を付けさせていただきます。</p>

(市民意見等の反映について)

市民意見	<p>「市政アドバイザー調査」、「患者満足度調査」で「高齢者総合診療科の設置」、「長期治療に対応した療養型の医療」、「救急医療の充実」、「医療従事者の質の向上」が上位に来ているのに十分に反映されていないのではないか。(1件)</p>
市の考え方	<p>基本構想(案)は、「市政アドバイザー調査」、「患者満足度調査」の結果だけでなく、学識経験者、医療関係者、住民・各種団体代表者などに参画いただき議論いた</p>

<p>考 え 方</p>	<p>いた「中央市民病院の基本構想に関する懇話会」の報告書や、医療を取り巻く状況、現病院の患者動向、現病院が抱える施設・運営面での課題などを総合的に勘案したうえで策定いたしました。</p> <p>「高齢者総合診療科の設置など高齢社会に対応した医療の充実」や「長期治療に対応した療養型の医療」については、高齢社会において増大が見込まれる 3 大疾病に対応する専門医療センターとして、「心臓センター」「脳卒中センター」「がんセンター」を設置することや、患者の利便性の高い場所に「地域医療センター」を設置することで、地域医療機関との連携を強化し、役割分担により、患者さんにとって最適な医療を提供することを目指すなど、いただいたご意見を踏まえ構想を定めています。</p> <p>また、「救急医療の充実」や「医療従事者の質の向上」については、それぞれ、新中央市民病院の特徴として、基本構想案に掲載しているところです。</p> <p>今後も、引き続き出前トークやホームページ等を活用した広報など、様々な手段を用いて、基本構想(案)の考え方についてご理解を求めていくとともに、引き続き患者満足度調査を実施するなど可能な限り市民の皆様や患者さんからの意見や提案を取り入れ、より良い病院を実現できるよう努めていきたいと考えています。</p>
----------------------	---

(職員アンケートについて)

<p>市 民 意 見</p>	<p>「患者アンケート」等が行われたのは評価されるが、病院に勤務している職員アンケート(職種ごと)も早急に実施すべきではないか。(1件)</p>
<p>市 の 考 え 方</p>	<p>基本構想(案)の検討にあたっては、「将来の医療の姿を踏まえた医療機能の具体化、明確化が重要である」との懇話会報告書を踏まえ、病院職員を中心に「医療機能検討会」を設置し検討を行いました。</p> <p>今後、基本構想に引き続き、より詳細な施設内容や運営方法を検討し、基本計画を策定していく中で、適時、検討の段階に応じて、各部門や各職種の意見を十分取り入れながら、21世紀にふさわしい機能を備え、職員にとっても働きやすい病院を実現できるよう、努めていきたいと考えています。</p>

(政策判断について)

<p>市 民</p>	<p>医療行政の政策判断は一義的には選挙を経た市長・議会が決定すべきである。(1件)</p>
----------------	--

意見	
市の考え方	<p>今回、基本構想(案)をより良いものとするため、多様化する市民ニーズに対応し、計画段階において市民の知恵を取り入れる仕組みとして定められた「神戸市民の意見提出手続に関する条例」に準じ、市民意見を募集し、基本理念に関することから基本設計段階の具体的な提案を含む内容まで、様々な視点から数多くのご意見を頂いています。</p> <p>今後、頂いた意見を踏まえ必要な見直しを行い、基本構想を策定いたしますが、基本構想そのものに対する評価は、市民のご意見、患者さんのご意見も多種多様であることから、議会での議論を経て決定されていくべきものと考えています。</p>

(神戸空港に関する意見について)

市民意見	神戸空港近くのウォーターフロントに病院が作られると、有事の際、別の目的に利用されるのではないかと不安である。(2件)
	神戸空港指定の病院として発展してほしい。(1件)
市の考え方	<p>新中央市民病院の移転新築予定地は陸路、海路のほか、新たに開港する神戸空港に近く、空路によるアクセスも効率的に活用できることから、災害等の緊急時における救急搬送や、臓器の摘出から移植まで迅速な対応が求められる移植医療などに有効活用することが可能であると考えています。</p>

(医療産業都市構想について)

市民意見	市民の健康・福祉の向上とともに、医療関連の新ビジネスや新サービスの創出等、周辺産業の拡大、経済効果に期待したい。(3件)
	医療産業都市構想は税金の無駄使いではないか。(1件)
市の考え方	<p>新中央市民病院の移転新築予定地周辺を中心に進む医療産業都市構想は、既存産業の高度化と雇用の確保による神戸経済の活性化、医療サービス水準と市民福祉の向上、アジア諸国の医療技術の向上など、国際社会への貢献を目指しています。</p> <p>その実現のために、「先端医療センター」「理化学研究所発生・再生科学総合研究センター」などの中核施設が、国の支援を得て整備され、国の公的研究費による再生医療の臨床応用や医療機器の研究開発が着実に進んでおり、68社の企業がポートアイランド第2期に進出してきています。(平成16年10月現在)</p> <p>医療関連企業や研究機関が集積することによって、雇用や税収が増加し、市内中小企業と連携した研究開発も行われるなど、神戸経済の活性化が進みつつあります。</p> <p>新中央市民病院は、これまでの機能・役割に加え、医療産業都市構想が進む中で、</p>

新しい医療技術や治療方法の普及を図るなど、提供する医療の内容や質、治療成績、患者サービスに関して、日本国内はもとよりアジアのスタンダードとなれる病院を目指しています。その、副次的効果として周辺産業や経済の活性化といったものも期待されるような魅力ある病院を実現したいと考えています。